

科 目 名	必修／選択	単位数	学 年	学科
歴史総合	必修	2	1	普通科

科目の概要	①近現代の通史を日本と世界の関わりの中なかで勉強します。 ②歴史的思考力を育みます。 ③歴史を自分ごとととらえ、自ら課題を設定して主体的に学びます。			
	教科書	詳述歴史総合（実教出版）		
教材名	副教材	詳述歴史総合徹底整理演習ノート新課程版（実教出版）		
担当者	菊地 聡 中川 章弘 花海 直人			
学習到達目標	①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ②近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			
学習方法	①講義を通して基本的な知識を養います。 ②演習ノートなどを通して自分で資料の読み取りや問題設定に取り組みます。			
評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ルーブリック		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査 ・単元テスト	・定期考査 ・演習ノート ・課題ワークシート	・課題の提出状況 ・授業に対する姿勢 ・演習ノート
	A	18世紀以降の近現代の歴史に関する基本的な知識を十分に理解できている。	18世紀以降の近現代の歴史に関する問いに対して複数の根拠を基に判断・表現できている。	18世紀以降の近現代の歴史に関する問いに対して粘り強く自らの答えを出そうとしている。さらに学習改善を行っている。
	B	18世紀以降の近現代の歴史に関する基本的な知識を理解できている。	18世紀以降の近現代の歴史に関する問いに対して一つの根拠を基に判断・表現できている。	18世紀以降の近現代の歴史に関する問いに対して粘り強く自らの答えを出そうとしている。
	C	18世紀以降の近現代の歴史に関する基本的な知識を理解できていない。	18世紀以降の近現代の歴史に関する問いに対して複数の根拠を基に判断・表現ができていない。	18世紀以降の近現代の歴史に関する問いに対して粘り強く自らの答えを出そうとしていない。

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容・目標等	時数	備考（テスト・講習等）
4	第1章 近代化への胎動	18世紀のアジアの経済活動と欧米諸国との関係について学習・考察する。	5	提出物 単元テスト
5	第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成	産業革命や国民国家形成のとその影響について学習・考察する。	4	
6	第3章 アジアの変容と日本の近代化	日本の近代化について、アジア諸国と欧米諸国との関係から学習・考察する。	10	
7	第4章 帝国主義の時代	列強の帝国主義政策とアジア・アフリカへの影響について学習・考察する。	8	
8	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦とその影響、大戦後の国際協調体制について学習・考察する。	6	前期期末考查 提出物
9	第6章 経済危機と第二次世界大戦	第二次世界大戦の要因、性格や戦後の国際秩序形成について学習・考察する。	6	
10	第7章 冷戦と脱植民地化	冷戦と地域紛争の背景や影響について学習・考察する。	4	単元テスト
11	第8章 多極化する世界	アジア諸国の経済発展と市場経済の変容について学習・考察する。	4	
12	第9章 グローバル化と現代世界	冷戦の変容と民主化や地域統合の背景と影響について学習・考察する。	4	後期中間考查 退出物
1			4	
2			4	
3			5	後期期末考查 提出物
			3	